

いわてパーソンセンタードフォーラム開催要項

1. 開催概要

日 時：令和 7 年 12 月 4 日（木）11:00～16:30

会 場：いわて県民情報交流センター（キオクシアアイーナ）8 階 会議室 804

参加費：無料

定 員：200 名（定員に達した段階で、申込み受付を終了とさせていただきます。）

主 催：社会福祉法人光林会（フォーラム事務局：るんびにい美術館）

協 力：社会福祉法人岩手県社会福祉事業団

後援申請予定：岩手県、岩手県知的障害者福祉協会、岩手県社会福祉法人経営者協議会、一般社団法人岩手県社会福祉士会

助 成：公益財団法人いきいき岩手支援財団

対 象：障害福祉事業の経営者および従事者、その他福祉関係団体等に所属する方、行政職員、特別支援教育および医療従事者、福祉分野に関心のある学生および一般市民

2. 開催の背景と目的

日本の生産年齢人口は 2030 年までに現在より約 300 万人、2040 年には約 1,200 万人減少すると予測されています（総務省推計）。現在において障害福祉（知的障害分野）の有効求人倍率はすでに 4 倍を超え、全業種平均の 1.2 倍を大きく上回る状況です。社会に不可欠なセーフティーネットである障害福祉業界が人材難時代を乗り越えるには、政策による支援のみならず、現場レベルで実行可能な施策が必要とされています。

2024 年の高校生白書（学研教育総合研究所）によれば、高校生が将来就きたい職業の 6 位に「福祉の仕事」がランクインしています。若い世代のこのような意欲を実際の就職につなぐと共に、現場で働く人たちが生き生きと定着するためには、支援現場において「福祉の仕事の魅力」が真に

実現されていることが必要です。障害福祉を志す人たちが求める仕事の魅力とは、障害のある人たち一人ひとりの人生に真摯に伴走する「パーソンセンタード（本人中心）」な支援の実践にあります。しかしながら人材不足や制度疲労から、現場におけるパーソンセンタードの理念は現在広く形骸化が認められるのが実態です。この人材難の時代においてこそパーソンセンタードの形骸化を打開し、真に魅力的な福祉現場を実現する対策が求められます。現実的かつ具体的なその実践手法の提言を通じ、障害福祉の持続可能性の実現のみならず、困難な時代にあってなお更なる向上の実現に寄与することを目的に、本フォーラムを開催いたします。

3. フォーラムの内容

基調講演およびパネルディスカッション

- **基調講演：**

山下完和氏（社会福祉法人やまなみ会やまなみ工房施設長）

- **パネリスト：**

野澤和弘氏（植草学園大学副学長・発達教育学部教授）

古井克憲氏（和歌山大学教育学部教授）

阿部孝司氏（社会福祉法人カナンの園シャローム・ウィズ所長）

田代拓之氏（社会福祉法人新生会障害者地域生活支援センターしんせい所長）

- **コーディネーター：**

板垣崇志（しゃかいのくすり研究所代表）

フォーラムのまとめとして、障害福祉の現場にパーソンセンタードな支援を文化として根付かせるための実践的かつ持続的な運用が可能な手法モデルの提言をおこないます。